

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山
手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合
代表者 森 戸 卓 也
編集人 松 浦 明日 香
電話 050 (3538) 2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2025/11・15
No. 2128
平和教育実践交流集会

第1回給与確定交渉を実施

県教委、現時点での考え方を示す！ 後日成案として提示！

11月5日、兵教組は県教委と第1回給与確定交渉をおこなった。

藤原教育長は冒頭、「皆様方には、兵庫の教育のため、日頃から各種のとりくみにご協力をいただき、また、様々な教育課題にご尽力をいただいていること、この場をお借りして感謝申し上げます」と述べ、「現在、検討をすすめているが、本日段階では、皆様方にお示しできる具体的な成案が得られていない」とし、給与改定や通勤手当、地域手当、病気休暇の見直し等について現時点の検討状況や課題として認識していることをあきらかにした。

これに対し、谷書記長から、兵教組の考え・思いを訴えた。(一部抜粋)

①給特法および政省令の改正について
兵庫では従前からすべての教職員が協力し、生活指導や教科指導だけでなく、いじめ問題や不登校等あらゆる課題にも協働する体制となるよう、校務分掌の検討からとりくんでいる。県教委も「チーム学校」として一丸となつてとりくむこ

とを指導の重点等において多く示しており、担任に「業務の困難性」が生じないよう、これまでのとりくみが一層強化されている実態がある。そのような中、国が示す担任手当が導入され、教職員間に処遇の差が生じること、これまで連綿と築かれてきた協力・協働の体制が崩壊してしまうことを危惧している。「チーム学校」としてすべての教職員が子どものゆたかな学びと育ちのためにとりくんでいる実態をふまえたものとするよう強くもめる。

また主務教諭について、あらたな職責をもとめるものではなく、処遇改善を目的として設置されるものとして設置されているものと受け止めている。政省令でも同様のことが示されていることをふまえた制度とするよう強くもめる。

②通勤手当について
学校現場は、公共交通機関で通勤することが難しい立地にあることや、勤務開始時刻が早い、始発に乗り遅れる間にあるなど、乗車により、自動車等を利用して通勤している方が多くいる。そのような事情にも関わらず、敷地が狭いため、敷地が狭い駐車場を自己負担で利用している、敷地内の駐車であつても市町によっては使用料を徴収されたりしている現状がある。人事院勧告により、これまでもとめてきたことが改善されること

を多くの教職員が期待している。パークアンドライド等、「本県の実情」をふまえた検討が必要であるが、人事委員会が口頭伝達事項において、「国と異なる措置となることはあり得る」とした実態をふまえた対応を強くもめる。

③高齢者の雇用について
高齢層職員の職場環境について、治療や介護、孫の世話などライフスタイルの変化に応じた働き方の多様化がすすんでいること、60歳以降の働き方に対する職員の意向やライフスタイルにも配慮した勤務形態による任用や配置等に留意すること、人事委員会報告および口頭伝達事項において触れられている。このようなライフスタイルに対応する労働環境づくりが、人事委員会報告にある「高齢層職員が働き続けるモチベーションの維持・向上に意を用いる」ことにつながるものであり、孫休暇はこれらのためにも必要であると受け止めている。孫休暇の導入、高齢層教職員の処遇改善をもとめる。

再任用教職員は、給与減額等の待遇への不満や、身体的な厳しさを言いながら、未配置問題が改善されず、多忙化に拍車がかかっている学校現場の実態を心配し、子どものゆたかな学習と育ちを保障するという責任感により働き続けている。しかし、責任感に頼る

④採用試験について
今年度、私たちがともめてきた臨時任用教職員の一次試験一部免除が実施された。しかし、臨時任用教職員は、子どものゆたかな学びと育ちのために教材研究などをおこない、自身の採用試験受験のための勉強ができない実態が依然としてある。今年度の採用試験結果を検証し、学校現場での経験を生かせる臨時任用教職員を対象とした免除の拡充をもとめる。

あわせて、未配置の解消にむけ、採用計画の抜本的な見直しをもとめる。また、事務職員の採用試験についても、受験年齢制限を教員と同様撤廃するよう、人事委員会にこれまで以上に強くもめられた。

⑤勤務時間の適正化、業務削減について
業務改善に関するガイドラインや「GPH200」のさらなる活用促進、業務改善がなかなかすすまない地教委等への指導、カリキュラム・オーバードロードへの対応、そして他府県でおこなわれている効果をあげているとりくみも参考に、知事部局や地教委とも連携をはかりながら、できることを直ちに、強力にとりくむことをもとめる。

⑥地域手当について
地域手当は一時金にも反映し、生活費の一部となっている。教職員の日々の生活に影響が出ないよう、慎重な検討をもとめる。

⑦病気休暇について
精神疾患による病気休暇取得者が増えている中、教育現場については教育委員会の管轄というところで、引き続き特例的な扱いがされている。他府県にも過去にも例がない対応であり、厳しい学校現場の実情に対して教育委員会が尽力されたものだと受け止めている。

第219回臨時国会 参議院本会議

みずおか議員が総理に代表質問

11月5日、参議院本会議において、みずおか俊一参議院議員が党を代表して質問に立った。

質問は、高市総理の所信表明演説に対して「国内人権機関の設置」「戦後80年」「教育」「再審制度の見直し」「朝鮮学校への高校無償化除外」等の21項目に渡った。(教育関連掲載)

持続不可能な教育現場

〇水岡 いま、全国の学校では「持続不可能な教育現場」という言葉が現実になりつつある。

文部科学省の調査によれば、23年度教員の時間外労働が月45時間を超えた割合が、特に中学校では4割以上で、過労死ラインの80時間を超えた教員も1割近くに上る。

担任不在の学級、病休・産休欠員の未補充、臨時免許で支えられる教壇。こうした異常な状況が、もはや「例外」ではなく、学校にわたっての「日常」になっている。学校は社会の基盤である。いま必要なのは、場当たり的な応急処置ではなく、今後の対応について協議することをもとめる。

これを受け、教育長は「本年も人事委員会の報告および勧告を尊重することを基本としつつ、適切に検討していきたい。国や他府県の状況、本県の財政状況等を総合的に勘案しつつ、皆様方からのご意見も十分にふまえた上で、検討していきたい」と回答した。

その後、森戸中央執行委員長が交渉のあり方を確認するとともに、「人事委員会勧告内容」「改正給特法等への対応」「通勤手当」の3点について兵教組の考えを示した。

※詳細は闘争速報No.6参照

教職員不足について

〇水岡 総理は、教職員不足の根本的な原因はどこにあるとお考えか。

また、教育の持続可能性を取り戻すために、制度の抜本的改革をおこなう考えはあるか。

明確な方針をお示ください。

〇高市総理 教師不足についてお尋ねがあった。現在の教師不足は、大量の定年退職や、また大量採用を背景とした産休・育休取得者の増加等により臨時講師の採用が増加する一方、正規採用数の大幅な増加等により臨時講師のなり手であった既卒者が減少していることが要因であると認識している。

教師不足は改善するべき課題であり、教師の魅力を高める観点から、業務の仕分けをおこなった学校と教師の業務の三分類をもとに、教育委員会による学校の業務量管理を徹底していく。また、入職の幅を拡大し、多様な専門性を有する教師を確保するという観点から、教職課程において共通で学ぶ内容の厳選と採用後の研修の充実、また、大学院における社会人の教員免許取得制度の創設にむけた議論をすすめる、関係法令の見直しなどにとりくんでいく。

LINEアカウント

兵教組 最新情報発信中！



車の購入はお得に！ まずは厚生会にご連絡ください

スマイルオーナーズプラン

「新車購入希望書」を提出いただき、厚生会からの紹介によって成約すると、キャッシュバック特典があります！

重要 必ず商談前※に厚生会へご連絡ください。

※商談後、契約直前での申し出は、厚生会からの紹介扱いとならないため、キャッシュバック対象外です。

中古車販売

中古車の購入もオンライン相談で欲しい車が探せます

会員特典 **車両プレミアム保証!!**
(国産車2年、輸入車1年)

中古車販売の詳細

自動車貸付

貸付範囲 (10万円単位)

10万~500万円

2025年12月18日(木)受付分まで
年利(固定金利)
0.90%

自動車購入のほかに・・・

- ◆自動二輪(原動機付自転車含む)の購入
- ◆他金融機関の自動車ローン返済
- ◆車検費用
- ◆運転免許取得費用
- ◆修理費用

※会員の配偶者および2親等以内の親族が使用する自動車等の費用にも利用できます。

自動車貸付の詳細

他の貸付の詳細

問合せ

(一財)兵庫県学校厚生会

車の購入
自動車貸付

生活用品課
信用共済課貸付係

TEL (078) 331-9305
TEL (078) 331-9974



▲実践報告の様子

第48回 平和教育実践交流集会 in 洲本

今、思いをつなぐ - 戦後80年、語り継ぐ平和の学び -



10月13日、洲本市文化体育館で第48回平和教育実践交流集会が開催され、県内各地より104人が参加した。

午前は実践提案をおこない、午後は実践報告とグループ討議、意見交流会がおこなわれた。

実践報告

「沖縄戦の悲劇『集団自決』」
2つのガマでの決断から命について考える」

谷岡 浩司さん(洲本)

終戦からちょうど80年が経った。その中でも沖縄戦は太平洋戦争において、日本で唯一地上戦がおこなわれた場所である。私たちはこのことを風化させることなく、後世に語り継いでいく必要があると、私自身強く感じている。ちょうど二年前に、先輩の教職員から沖縄戦の資料をいただき、それをもとに小学校六年生を担任していた時に、社会科の学習にあわせて人権教育と平和学習をおこなった。

まず子どもに「沖縄戦って何ですか?」と聞いても、「沖縄で起こった戦争?」という答えしか返ってこなかった。子どもは戦争という言葉を知っている、実際にどのようなことがおこなわれ、どのような悲劇があったのかをほとんど知らなかった。

なかつた。そこで、沖縄戦について調べ、考えを深めていった。

当時、日本が国民に植え付けていた言葉がある。それが「生きて虜囚の辱めを受けず」である。これは捕虜になる前に死ぬ。捕虜になる人は恥知らず。つまり「自ら死になさい」ということを意味している。この考え方について子どもにどう思うか尋ねると、「かわいそう」、「命を何だと思っているのか」といった意見が出た。日本は当時間違っただ道をすすんでいたのだ。

1945年4月1日、アメリカ力は沖縄県の読谷村という場所の海岸から上陸を始めた。読谷村には多くのガマがあり、その中の二つが、シムクガマとチビチリガマで、隣同士にある。シムクガマには1000人、チビチリガマには140人が避難していた。この二つのガマに、脅威が迫った。上陸したアメリカ兵がガマの入り口まで迫ってきて、「かまわん、出てこい、殺さない」と言った。この言葉聞いて、二つのガマではまったく異なる結末となった。

チビチリガマでは集団自決が行われ、140人中83人が亡くなった。当時の日本の教えを信じ、自ら命を絶ったのがチビチリガマの方々である。現在、チビチリガマには教育供養塔と千羽鶴がまつられている。また、石碑も建てられており、この悲劇を二度と繰り返さないように、「平和な国を願って」建立されたものである。平和について深く考えさせられる場所である。

一方、シムクガマでは、全員助かった。なぜか。それはアメリカ兵に投降したからである。実は、シムクガマにはハワイから帰ってきた二人の日本人がいた。アメリカのことをよく知っていたのだ。シムクガマにアメリカ兵が迫ったとき、住民たちは「日本人なら天皇陛下万歳と言って自決すべきだ」と言った。しかし、比嘉平治さんは叔父の平三さんと一緒にガマから出て行った。住民たちは「殺されに行くのと同じだ」と思った。しかし二人は無事に戻ってきて、「アメリカと話してきた。投降すれば殺さないと約束した。大丈夫だ。命を大切にしよう。さあ出よう」と言った。そして住民は続いて外に出た。この二つのガマの命運をわけたのは何だったのか。勇気か、知識か、生きようとする強さか。ここで子どもに教える上で大切にしたいことがある。それは、チビチリガマの人々は決して命を粗末にしたわけではないということだ。そうすることが正しいとされていた時代だったからこそ、集団自決という道を選ばざるを得なかった。二つのガマで命運をわけたのは、アメリカについて知っている人がいたかどうかである。命を大切にすることが何より大切だと行動できる人を育てなければならぬと感じている。

沖縄戦で集団自決によって失われた多くの命。この学習から子どもたちが命の尊さを感じ取ってくれればと思う。このとりくみは、先輩の教職員から受け継いだものを自分なりに実践し

たものである。人から人へ受け継ぎ、語り継ぐことは非常に大切であり、語り継いでいくことが重要であると感じている。戦争の悲しさ、二度と起こしてはならない戦争について語り継ぎ、次の世代へ橋渡しをしていくことが、私たちの使命である。

戦後80年

「平和の種をまく」
岡本 葉奈さん(洲本)



安平中では主に一年生を対象に、一学期に平和学習を実施した。まず導入として、「戦争と聞いて思い浮かぶもの」、「沖縄戦について」、「平和な世界をつくるために自分にできること」、「平和学習の時間」以外も平和について考える。この四つのテーマを設定した。まず「戦争と聞いて思い浮かぶもの」について、メンチメーターを使用し、思いつくものを三つほど挙げさせた。子どもからは実にさまざまな言葉が出てきた。その中から一つを選び、スライドにまとめた。次に「沖縄戦について」学習をおこなった。最初に「6月23日は沖縄慰霊の日です。なぜこの日が慰霊の日なのか」という問いかけから始めた。地上戦について教科書で知っていたも、なぜその日付なのかまでは知らない子が多く、この日は集団的抵抗が終わった日である」と説明し、沖縄戦の概要について学習した。

「当時、沖縄で暮らす人々はこのように生活をしてい

たと思うか」という問いに

対し、子どもからは「戦って

いた」、「アメリカ兵が上陸

してきた」といった意見が

出た。「実はこういうこと

があった」と補足しながら

学習をすすめた。戦場に行

けなかった人々は「ガマ」

と呼ばれる自然の洞窟に避

難していたという点にも触

れた。その際、私自身がガ

マを訪れた経験も語った。

「ガマの中は蒸し暑く、真

暗である。明かりを消すと

何も見えない。わかるのは

隣に人がいる気配だけだ。

そんな中で米軍が来るかも

しれないと怯えながら過ご

していた。終わりがいつな

のかもわからない。みんな

ならどう思う?怖いだろ

う?お腹も空いていただろ

う」と語りかけると、子ど

もは静まり返って真剣に聞

いていた。ガマに行くこと

は難しいが、想像を通して

「本当に辛かったんだろ

う」と感じ取ってくれた。

戦時中だけでなく、戦後

についても触れた。アメリ

カ統治下では通貨がドルで

あり、車は右側通行、日本

本土に行くにはパスポート

が必要だった。これを話す

と、子どもは驚きの声を上

げた。1972年5月15日、

沖縄は日本に復帰した。右

側通行から左側通行に切り

替える際の様子を映像で見

せると、歓声が上がった。

しかし、日本に復帰した

とはいえ、今なお米軍基地

が残っており、騒音や米兵

による事件などの問題が続

いている。「本当に日本に

復帰したと言えるのか」と

いう問いを投げかけ、子ど

もに考えさせた。

続いて、面白い話題とし

て「平和の礎」について紹

介した。沖縄戦最後の激戦

地、摩文仁の丘にある平和

記念公園内に「平和の礎」

がある。そこには沖縄戦で

亡くなったすべての人々の

第75次兵庫県教育研究集会 プレフェスティバル

子どもと親の劇場 スーホの白い馬

10月25日、あさご・ささゆりホールで劇団道化座による「子どもと親の劇場・スーホの白い馬」の公演がおこなわれた。

今回は第75次兵庫県教育研究集会のプレフェスティバルとして、但馬・丹波地区を中心に参加を呼びかけた。公演には120人が参加し、迫力のある演技に大きな拍手が送られた。

上演終了後には役者とともに劇の1シーンを再現する体験教室がおこなわれ、本物の舞台を体験する貴重な機会となった。



名前が国籍を問わず記されてお

り、敵味方の区別なく

刻むことで恒久平和を願っ

ている。

平和学習のまとめの時期

にイランとイスラエルの間

で軍事衝突が発生した。「ま

た新しい戦争が起きてしま

った。いつになったら戦

争のない世界ができるのだ

ろう」と問いかけ、「私たち

にできることは何か」を

考えた。小規模なクラスで

あったため、全員の意見を

模造紙一枚にまとめた。特

に印象的だったのは、「平

和な世界とは戦争がないだ

けでなく、災害によつて生

活が壊れないことも含まれ

る」という意見である。「家

族や友だちなど、自分の知

る限りの人を愛す」という

言葉にも心が温まった。

最後に、平和学習の時間

以外でも平和について考え

てほしいという思いから、

8月6日と9日をなんと

く過ごしてほしいと考

え、夏休み中ではあったが

配信をおこなった。

その年、長崎を訪れる機

会があったため、「長崎か

らおはようございます」と

配信した。その体験を夏休

み明けの学級通信にも載

せた。子どもに配布した。

今回、平和学習をおこ

参加者感想より

毎年、この教育実践交流集会を楽しみにしている。いつも本当に大切なテーマで学びが多く、この集会は教研集会と同じくオーブンにしていたくさんの人に参加してもらいたい。洲本の方々は若い世代も参加されていて、未来を感じた。平和学習を実践するためには、「命の大切さを実感していること」、「証言の重みを感じられること」、「多角的

に相手の立場も想像できること」が教える側も子どもにも必要だと思う。これからも平和な世界の実現にむけて、ともに頑張ろう。

平和教育は、事実を事実として伝え、子どもに判断させることが大切だと思った。教える子を再び戦場に送るな。その通りだと思ふ。だからこそ、平和教育をいねいにおこなわなければならないと、改めて感じた。戦争は誰も幸せにしない。そのことは、伝えていかなければならないと思った。

ありがとうございました。

平和学習について大変勉強になった。自分たちが次の語り継ぐ立場であることを自覚し、たくさん



▲グループワークの様子